

森林基幹道のルート見直しについて

～住民満足度アップとコストダウンの実現～

二戸地方振興局土木部

H19年度末の独立行政法人緑資源機構の解散に伴い、平成20年度から同機構の幹線林道事業県内4路線のうち、安孫・平糠線（葛巻町～一戸町）と毛無森線（一戸町）の整備を当部が担当しています。

そのうち、安孫・平糠線の「落合区間（一戸町）」については、緑資源機構の当初計画ルートと地元住民の要望や県の財政事情を踏まえた別のルートを比較検討し、当初計画ルートを見直すこととしました。

■ 当初計画の概要

当初計画ルートは、緑資源機構が幹線林道事業（全国7箇所の大規模林業圏において林道ネットワークの軸となる基幹林道を整備する事業）として設定した高規格道路（幅員7m・全面舗装）として計画していたため、山岳地帯の中腹を横断する線形となっており、4つの橋（100m1橋、60m2橋、50m1橋）が必要でした。

また、総事業費は27.6億円で、事業期間は平成20～31年度となっていました。

■ 地域住民の要望に応えた道づくりを目指して！

当初計画ルートに対しては、地元住民から次の要望が寄せられており、さらには厳しい県財政の中、事業費の縮減をなんとかできないか、皆で知恵を絞りました。

- ・当初計画ルートは急勾配で、冬場の通行が怖い。
- ・通い慣れた現道（落合林道）を改良して欲しい。
- ・新しい道路を早く使えるよう、工事が早く終わるルートを選んで欲しい。

■ 新たな計画の作成

地域の声に応えるため、国、市町村、県関係部署とルート変更に伴う影響等を十分に協議しながら、当初ルートを一部変更する形で新たな計画を作成しました。この計画の工事費は6.9億円で約1/4に縮減となり、事業期間も20～26年度と約半分となりました。

【計画変更のポイント】

- ・起点（東地区）側は用地取得済みの区間を活かしながら、現道（落合林道）に接続。
- ・現道（落合林道）が幅員4mの砂利道で、急峻な山間部の川沿いを縫うような道路であるため、幅員は5m。
- ・橋梁は当初計画ルートよりも少ない3橋（40m1橋、30m2橋）で対応可能。

